

令和7年度(2025年度) 第1回図書館協議会議事録

と き 令和7年6月19日(木) 午前10時

ところ 真庭市立中央図書館 3階会議室

出席者：清友久美子委員、庄司憲子委員、内藤貴嗣委員、廣瀬正明委員、森年雅子委員、山本信子委員、湯浅稔委員、吉野奈保子委員

欠席者：松尾敏正委員

事務局：西川正(中央図書館長)、佐藤弘敏(図書館振興室室長)、上杉朋子(課長補佐)、横山衣未(主任)

1. 開 会

○事務局

定刻になりましたので始めます。

2. 館長あいさつ

みなさんお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。本日は、令和6年度第1回の図書館協議会ということで、どうぞよろしくお願ひいたします。本日の会議では、今年度の図書館運営の状況についての報告に加え、5か年計画である「真庭市図書館みらい計画」の最終年度にあたることから、今後の見直しや改定に向けた話し合いをしていきたいと考えております。今年度は例年より回数を増やし、4回の開催を予定しています。皆さまと一緒にみらい計画の振り返りと今後の方向性について話し合いながら、よりよい図書館をつくっていただければと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。

3. 議事

(1) 今年度の図書館協議会について(当日配付資料1)

○委員長：「今年度の図書館協議会について」事務局から説明をお願いします。

○事務局より当日配付資料1により、「今年度の図書館協議会について」説明。

○事務局：今年度は令和3年に策定した図書館みらい計の最終年度となっております。当日配布資料の「2.計画改定の主旨」をご覧ください。こういった取り組みでライブラリーオブザイヤーを受賞したり評価していただけたと思っています。

基本的に今の計画を継承したものを作っていきたいと思っています。合わせて人材不足・予算の関係等もあり、これから運営体制も非常に厳しいと思っています。そんななかで現在の運営体制を活かして持続していけるような方針を定めるために改定をするという意図もあります。

こちらからお願いです。通常、策定委員会を設けるのが一般的ですが、図書館協議会を定められて運営に対して意見をいただく場となっておりますので、この図書館協議会の中でみらい計画の改定について提案させていただいて意見をいただきたいと思っています。よろしくお願ひいたします。

○委員長：「今年度の図書館協議会について」ということでしたが、主な内容はみらい計画の策定についての説明でした。皆さんから質問等ありますか。回数が増えますのでスケジュール調整が大変だと思っています。9月と11月に関してはなるべく全員出席が求められかと思っています。みなさまご協力をよろしくお願ひします。

○委員：みらい計画について今年改定作業をするとは聞いていませんでした。もう少し図書館を利用されている方の意見が反映されなくていいのかなと思っています。現在のみらい計画を継承するとはいえ、策定に関わるのが、このメンバーだけでいいのでしょうか。

○事務局：できるだけ多くの方の意見を取り入れられるような改定作業については、そだて会議などで市民の意見も聞くことを考えています。今回の協議会の後に改定案を作り、協議会の場でご意見をいただき、図書館そだて会議を開催する予定です。

(2) 令和6年度 図書館の運営状況について報告(当日配付資料2と資料1)

○委員長：「令和6年度図書館の運営状況について」事務局から説明をお願いします。

○事務局：当日配付資料 2 により、令和 6 年度 図書館の運営状況について説明。

つづいて

○事務局：資料 1 により、「図書館みらい計画」の令和 6 年度進捗状況について説明。

○委員長：事務局から説明がありました。委員の皆さんから質問等ありますか。

○委員：来館者数、利用者数ともに増えてきているということですが、市外からの利用者が増えているのでしょうか。

○事務局：観光客はよく立ち寄ってくださっていると思います。来館者数は市内利用者と市外利用者の区別は分かりません。北房図書館ですと高梁・新見の方がよく来られます。中央では美咲町の方がカードを作って毎週のように来館して下さっている例があります。気に入って使っているのかなと思います。

○委員：岡山県のどこの方が利用者カードを作れるのでしょうか。

○委員長：美作圏域、旭川沿い圏域（連携中枢都市圏）、高梁市、新見市、新庄村などかなり広く利用者カードを作っていただけます。

○事務局：視察なども増えていいです。話題になると県外などからも来館されます。月イチ映画でも映画によっては県南からもお越しになります。

○委員：真庭市に視察で来られる方を案内する時、図書館を見たいとの要望もありますよ。

わたしは現在、真庭市の中和地区に住んでいるのですが、学校図書館のデータベース化がとてもありがたいと思っています。現在、学校の図書室を地域に開くことができないか、学校運営協議会を中心に学校司書さんとも相談し検討しています。中和小学校には毎週木曜日に学校

司書が来てくださるので、その日に地域の方も利用できるようにしたいと考えています。地域に開いた場合に利用いただける方があるかどうか、来週、保育園の保護者にヒアリングを予定しています。保育園に通っている人たちが、小学校に気軽に立ち寄れる機会になればとも思っています。また、「ブックるん」は、地域の方にあまり周知できていない印象です。保育園の保護者へヒアリングをする際に「ブックるん」についても改めて紹介しようと思っています。

私が今年の春のショックだったニュースに吉備中央町が9つの小学校を3つに統合するというニュースがありました。真庭市には、現在、20の小学校と6つの中学校があります。市内には公民館が少ないので、学校の空き教室が公民館的な機能を有し、地域と子どもたちとのよい関係が社会教育の観点からも活発になることを望んでいます。へき地でも図書に触れる機会が得られるように動いていきたいです。

- 委員：学校図書館のシステムが整ったことは大きな成果だと思っています。司書の研修もしっかりされていて、専門的な視点からアドバイスもしてくださっている。そだて会議で学校図書館を地域に開いていけばどうだろう、という意見がでて、檜邑小学校ではそこから実施に至りました。とてもよかった。今年の新1年生も保育園の頃から小学校に来てくれていたので春からの小学校での新生活にすぐ慣れることができました。学校司書が在籍する時間も少ないため、地域の人も貸出作業に慣れてくださっています。学校司書がいる日にはフォローもしてくださります。

大人向けの本も中央図書館から持ってきてくださるので、子どもたちも、大人向けの料理や手芸の本を手にとることができ、読書の幅が広がって、とてもいいなと思っています。

- 委員：夏に図書館で予定されている戦後80年の企画も、オンラインで繋いで学校図書館から参加などできるともっと広がっていくのではと思う。

- 事務局：学校司書の配置については、なかなか各学校の希望に沿ったものにはなっていないが、地域の方と協力することでさまざまな取り組みができるといいなと思っています。学校連携についてはまだ考えて

いかなければならないことがあると認識しています。今年からは搬送便も導入し、使いやすくなっているのではと思っています。

○委員長：学校図書館の取り組み事例について、意見がたくさん出てよかったですね。学校はどこにでもあるという部分から、地域で活用したいという声ができれば考え方も変わっていくのではと思います。計画に盛り込まれることを期待しています。

○委員：運営実績を見せていただいて、各地区館の方の活動が活発になってきていると思いました。司書が少ない中で新しいことを進められていてすごいと思いました。これらの努力が目に見える数字に表れていると感じました。

そだて会議をイベントと一緒に開催することで、参加者を増やす工夫をしているということでしたが、私が関わっている月イチ映画もひとつ機会として使えるのかなと思いました。たくさん人が来られていますので。

映画祭の時には外国の方や普段来られない方も来ますので、そだて会議などを同時に開催して意見を集めることもできるのではないのでしょうか。

○委員：昨年度は3月に中央図書館で県内の大学生や39歳以下の若者がバンドをしたり館内全部を使ってイベントをさせていただきました。真庭出身の大学生が多く参加してくださって、大学生になってから真庭市でイベントすることは新鮮だったという意見がでました。本を借りるということには繋がったかはわかりませんが、こんな用途で図書館が使えるんだよという周知はできたと思っています。

個人的には、子どもが生まれて二ヶ月半になります。子どもが産まれたことで図書館に行きたいという気持ちが今まで以上にでてきたと感じています。同じ日に出産された人も図書館に行ってみたいと言っていたが、どこにあるか分からないということだった。検診では利用者登録用紙とファーストブックが配られたが、利用案内のチラシもあるといいと思った。その他にも、絵本をレンタルを出来ることを知らせたり、検診にブックルンが来たりなど、利用につながる取り組みは、まだ工夫ができる部分があるのではと思います。

た。

○委員：中和地区では新しく子どもが生まれているのは移住者の家庭です。移住者はまだ地域のことをよく知らない、情報を持っていないことが多いので、配布物をつくるのはいいと思います。

○委員：なかなか子どもを連れて出かけることが難しいし、調べることも難しいので施設の案内（赤ちゃんがいる家庭向け）など冊子があるといいなと思います。

○事務局：保護者の方に「赤ちゃんと一緒に図書館に来てくださいね」ということをぜひお伝えしたいと思います。どのような内容がいいのか、ぜひ相談させてください。

(3) 令和7年度 各館の活動計画・重点取り組みについて(資料2)

○委員長：「令和7年度 各館の活動計画・重点取り組みについて」事務局から説明をお願いします。

○事務局：資料2により、「令和7年度各館の活動計画・重点取り組みについて」説明。

○委員長：今年度は「みらい計画」の最終年度ということで今までの取り組みの仕上げという年になるかと思います。

(4) 「真庭市図書館みらい計画」の改定について(資料3)

○委員長：「真庭市図書館みらい計画の改定について」事務局から説明をお願いします。

○事務局：資料3により、「真庭市図書館みらい計画」の改定について説明。

○委員長：事務局から説明がありました。学校司書の仕事への熱量を感じました。しかし一方で課題が多く、どう対処していったらいいのか、みらい計画の改定にどのくらい盛り込めばいいのか、考えさせられました。一番の課題は人が充てられないということかと思います。

その部分を避けて考えることは難しく感じます。柱そのものについても検討ということですが、基本方針で柱はキャッチフレーズのようなもので強調されているのだと思うが、改定にあたって市民になら分かりやすいことばに変更してもいいかもしれませんね。委員の皆さんから質問等ありますか？

- 委員：どこの図書館も赤ちゃんとお母さん来てねという取り組みをされていると思います。検診の際にチラシはたくさん貰うので埋もれてしまうと聞いたこともあります。2年前までは久世のよみきかせイベントは人が多く参加していました。お母さんたちもすごく楽しそうで、その場でお友達ができたりしていました。今は参加人数が少なくなってしまったので残念です。今後のPR方法を考えたいです。「つどいの広場」が7か所あるのでそちらでできることもあるのかもしれないと思っています。
- 事務局：以前のように、読み聞かせに人が集まらなくなっている。何か保護者の方どうしの距離感や考え方が変わったのかもしれない。
- 委員：月齢がどのくらいから参加していいのか分からず参加するハードルになっている。うちの子は2ヶ月でもう行ってもいいのかなと迷います。LINEにはぐくみセンターから来るおしらせは、みなさんよく見られているようです。
- 委員：以前は、ここに行けば話ができたり友達ができるかなと分かっているというのがあったが、現在の距離感は変わってきているのかもしれない。
- 委員：先輩お母さんからはY o u T u b eを勧められました。
- 委員：次の5年間でこれだけはやるということを重点的に決めた方がよいと思いました。やりたいことを明確にしたほうが計画的にはいいのではと思います。居場所作りなどについては、図書館のほかにも、地区の公民館や、学校でもやっている。それぞれの役割があり、連携することが大切。図書館がやりたい、やるべきことをしっかり決めて5年間やってみるのも重要ではと思います。いろいろな事をやりすぎると5年で収まらないこともあるのでは。

- 事務局：柱を継承すると最初に言いましたが、理念や今まで大切にしてきたことは継承するという意味です。アクションプランは、現状と課題にあわせて修正することが必要と思っています。
- 委員長：他にもご意見はありますか。
- 委員：10年前に瀬戸内図書館に見学に行きました。この間、久しぶりに行ってみました。10年前には既にデータベース化も終わっていて、移動図書館も2台あったと思います。大勢の方たちに思い思いに利用されていて、10年前と図書館としては変わらずに取り組みをされている印象でした。
書棚の移動のビフォーアフターなど写真を撮って、他の図書館にみてもらうなど情報を共有して業務に役立てたらどうでしょうか。情報共有して、真似しあうことで、業務効率をあげることも大切だと思いました。
中央図書館の20周年の企画を地区館へ回してみるのはどうでしょうか。業務が負担になりすぎない工夫も必要だと思います。
- 委員：さきほど委員の方が言われたように色々広げすぎるとできない。アクションプランであるなら活動しやすいもの、重点的なものをあげて取り組まないと現場が大変ではないですか。整理統合できるものはやって、これからの5年間について分かりやすくまとめ目標を共有化することが必要だと感じました。

委員長：次回の会議の時にみらい計画の意見をみなさんで出し合いたいと思います。事務局に進行をお返しします。

4. その他

- 今年度の図書館協議会開催日程の相談。
 - 第2回9月25日(木) 15:00～
 - 第3回11月19日(水) 15:00～
- 事務局 地域おこし協力隊ミッション型募集について。
司書の資格はなくても情報発信力やHPについてファシリテーションの力を持っている方を2名募集することにしました。よい方がいたらおすす

めくください。

5. 閉 会

- 館長：この5年間は、大きく言えば、①まず図書館サービスとしての基盤を整備しようということと、②図書館みらい計画に明記した「図書館が人の交流の場になる」とはどういうことなのか、という2つのことに取り組んできた5年間でした。今後も充実させていきたいが、同時に人も予算も限りあるなかで、持続可能な運営について考える時期でもあると思う。山崎亮さんの言葉で「縮充」という言葉がある。縮小すると同時に充実していくという意味です。そのありようを考えていく時期にきているとも言えます。どうか引き続きご協力をお願いいたします。